

令和2年12月 市長定例記者会見

2020年11月20日(金)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和2年12月市長定例記者会見を始めます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質問応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思いますと考えております。

なお、ご質問の際は、お手数でございますが、まず挙手をお願いいたします。そしてご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようお願い申し上げます。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくをお願いいたします。

それでは、市長、よろしく申し上げます。

【市長】 では、12月定例記者会見です。よろしくをお願いいたします。

一昨日、7人、コロナウイルス感染者が出まして、非常に心配しておりましたけれども、昨日と本日、出ていないということで、少しここで落ち着くのかなというふうに期待をしているところでございます。

また、10月24日、25日から駅前イベント、それから11月1日には本町のところの実証実験、11月3日から8日まで人道ウィークとしまして新ムゼウムのオープニング、またフェスティバル等をやらせていただきましたが、規模感を持ちながらということで、たくさんの方が来過ぎてはいけないしという中でさせていただいて、結果として、これに基づくコロナウイルスは出なかったのかなというふうにほっとして、新しい生活様式の中できちんと対応しながらの活動は若干いいのかなというふうに思っております。

また一方で、今ほど言いましたように、コロナウイルスの感染者も出ていますので、もう一度引き締めながら、対策をきちんとしながら前に進めていきたいというふうに思っています。

今日は12月議会の告示日となりますし、議案の提案理由等も説明させていただきますので、どうかよろしくをお願いいたします。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 発表項目については1項目で、令和2年度12月補正予算案の概要についてでございます。

今回の補正予算につきましては、給与改定等による人件費の調整を中心に、前回補正以降に予算措置が必要となったものを計上いたしました。

また、総務費では、ふるさと納税の寄附見込額増加に伴う返礼品の送付等に係る経費を計上いたしました。

民生費では、県が行う保育士等を対象とした慰労金支給の対象外となる認可外保育施設の職員に対し、市が同様の支給を行うための経費を計上いたしました。

衛生費では、休日急患センターで新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザの抗原

検査を行うための経費を計上いたしました。

商工費では、港都つるが株式会社が行う中心市街地の遊休ビルの改修等に対し補助金を計上いたしました。

教育費では、修学旅行の行き先を県内に変更した場合に県から交付される補助金を計上するとともに、総合運動公園野球場のスコアボード改修に係る工事費等を計上いたしました。

以上が今回の補正予算の概要でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

**【秘書広報課長補佐】** それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けしたいと思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

**【記者】** 今回の補正予算の概要の中で、認可外保育施設の職員に対しての経費支給ということがあったかと思いますが、もう少しこの内容について具体的に教えていただけますでしょうか。

**【福祉保健部長】** こちらの認可外保育施設従事者慰労金支給事業でございますが、県におきましては、令和2年3月18日から2年6月30日までに通算して10日以上、保育園、幼稚園等、保育施設等で勤務をした者に対しまして、慰労金を支給する事業を行っております。県の補助事業の対象外となっております認可外保育施設、例えば事業所内の保育所であったり、企業内の保育所、敦賀病院にも病院内の保育所とかございますが、そちらの認可外保育施設につきましては、コロナ禍の中でもお子さんを受け入れていただいておりますが、県の事業の対象とはならないということで、こちらのほうもやはり市が単独事業として支援をしていきたいということで補正を計上させていただいております。

市内には認可外保育施設、8施設ございますので、その保育士さん等を中心としたお子様に関わっていただいている方、最大50名を想定いたしまして予算を計上させていただいております。

以上でございます。

**【記者】** 確認のため、まずは、この慰労金はコロナ禍にあってということでの慰労金を県が保育施設に対してやっていたというのがまずあって、認可外保育施設について、対象外なので、これについては市が独自でやるということで間違いないでしょうか。

**【福祉保健部長】** そのとおりでございます。

**【記者】** ありがとうございます。

**【秘書広報課長補佐】** ほかに幹事社さん、よろしいでしょうか。

それでは、各社にお伺ひいたします。発表項目につきまして質問がございましたら挙手のほうをお願いします。

**【記者】** その次の項目のコロナの検査とインフルの検査なんですけれども、これも想定する人数とか件数というのはどのようなものになっていますでしょうか。

**【福祉保健部長】** こちらの補正事業でございますが、新型コロナウイルスとインフルエンザの抗原検査をするキットの補正でございます。こちらの予算といたしましては、10件の検査ができるキットを55セット、予算を計上させていただいております。

休日急患センターでの検査のためのセットでございます。

**【記者】** 総合運動公園野球場のスコアボード改修に係る工事費ですけれども、予算が通った場合、改修工事というのはいつからで、完了する予定はいつごろになるのでしょうか。

【教育委員会事務局長】 12月議会で今お話がございました予算をお認めいただければ、その後、契約手続に入りたいと思います。そして、工事完了というところでは約七、八か月かかるのではないかなというふうに見込んでおります。なるべく早く完了したいと考えておりますので、また手続等を進めさせていただきたいと思っております。

【記者】 関連してなんですけれども、先ほどの総合運動公園のスコアボードなんですけれども、何とか来年の野球の地方大会には間に合う感じですか。

【市長】 来年できるだけ早くということをしめますけれども、予算が通って入札がありますので、はっきりとは言えないんです。シーズン中にはできるようにしたいという目標でやっています。

【秘書広報課長補佐】 ほかによろしいでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答を行いたいと思います。これも幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 新型コロナが昨日、今日はないというところでの現在の受け止めというか、どのように捉えられているか、お答えいただけますか。

【市長】 福井県の場合は、発生した周囲の方、濃厚接触者以外にも周囲の方を検査して抑えていこうというスタイルを取られていますので、非常にここは心強いと一つ思っています。その中で、たくさんの方の検査を昨日、また今日の結果ということで出ていますので、かなりの確率で前の方たちの広がりはないのかなということを期待しています。ただ、まだ検査中の部分もあると思いますので、明日また出なければ、これで一応収束なのかなということ期待しているところです。

以上です。

【記者】 北陸新幹線の建設工事についてなんですけれども、結果的に国交省が1年半遅れるということと与党PTに伝えてということがありました。敦賀の駅舎周りも含めて、その辺の工事についても具体例として挙げられていましたけれども、個人的に思ったりするのが、工事がどうこうという前に、そういう遅れ自体を認識していた時期も結構早かったということもありつつで、立地自治体というか沿線自治体に対して、結構ないがしろにされているんじゃないかなというふうに個人的に思ったりもするんですが、このようなタイミングでそういうような話が上がったことに対しても含めて、現在の市長の受け止めをお答えいただけますでしょうか。

【市長】 1年半ということにつきましては、私らにとっては唐突な話だったので、びっくりしました。敦賀と、あとトンネルの石川県のほうで、やり玉に上がっていますけれども、地名が出てくるのは非常に悲しいんですが、私たちが遅らせたわけではないので、あくまでも。結果としてその場所ということで理解してほしいなと思いますが、地元がないがしろかどうかというと、県単位もしくは北陸単位で要望活動を行って進めていることですので、その中での報告になろうかというふうには思っています。

ですから、もっと早くしてほしいということは、みんな、県単位で、また力を合わせて交渉して、値段についても交渉していかなくてはいけないと思いますけれども、駅を設置する自治体だけが頑張っても、声を上げて仕方がないので、皆さんと力を合わせて、何とかできないかということ交渉していきたいというふうには思います。

【記者】 この時期にそういう報告がこのタイミングであったということに対しての何か

憤りとか、そういうこととかというのは市長の中にはございますか。

【市長】 そうですね。私、市長になったときに3年前倒しが決まったときなんですよ。ですから早く、3年前倒しになったんだから受け皿づくりを頑張らなくてはいけないとか、私どものやろうとしていたことも前倒ししましたし、あと駅の開発とか場所とかいうことは3年前倒しで議論が終わってしまいましたので、いかに用地の取得、最初遅れていましたからお手伝いするかということで早くなりましたし、いろんなことを精いっぱいお手伝いしているんです。

その中で、事業を前倒ししたことで、いっぱいいっぱいだということはよくよくみんな承知しているわけですから、精いっぱいやってきた結果がギブアップといったときにはこういう状態になっていたんだろうなというのは何となく推察はできます。

ただ、どのタイミングで言うかというのは、なかなか悩まれたと思いますけれども、私らとすると、3年前倒しのときにもっとはっきり分かったほうがよかったですでしょうけれども、そういうこともできないでしょうから、致し方ない部分もあるのかなという気持ちはあります。理解しなくてはいけないなという気持ちもあります。

【記者】 今の質問に関連してですけれども、具体的に敦賀市が進めるいろんな事業で、もし1年半遅れた場合に、どんな影響が考えられるかということのご認識をお願いします。

【市長】 いろいろと国交省さんとかお手伝いいただきながら、本町も2車線化工事ができましたし、金ヶ崎のところもムゼウムが新しくできましたし、そういうところでいろいろ間に合うようにということで手を尽くしてきたわけですから、そういう意味ではそれが少し、それに連動して盛り上がり活性化していこうというタイミングが少しずれるんだろうなというふうに思います。また、駅前のAゾーンのところで、立体駐車場はできましたけれども、今度ホテルとかにぎわい施設、交流施設を造っていただく予定ですので、そのタイミングについてはどうするのかということは今後議論しなくてはいけないというふうに考えています。

【秘書広報課長補佐】 幹事社さん、よろしいでしょうか。

それでは各社にお伺いさせていただきます。

【記者】 2点お願いします。

1点目は、先ほどのコロナの話の中にもありましたけれども、新ムゼウムがオープンしまして、その後、人道ウィークもありました。その辺のポイントを終わられての思いとか今後のお考えについて、お願いいたします。

2点目は、11月14日の行政レビューで、ふげんについて見直せという話が出ていると思いますが、その辺の地元の受け止めについてもお願いします。

【市長】 ムゼウムを新しくしていただいて、たくさんの外国の要人の方々、また宮島ポーランド大使にも来ていただきまして、各国の関心度といいますか評価は非常に高い。また政府の評価も高いんだなということを改めて再認識しました。

先日、11月3日が終わりました、外務省のほうにも寄せていただいたんですが、そのときに、国と国との関係ということで外務省はそういう活動をしてきたんだけど、地方でも外国との関係をよくするような取り組みというのがあり得るんだということで、もう一回そういう考え方を改めて広く、敦賀だけでなく広く全国に見直しをしてみたいなという気持ちもあるよということと、それから、リトアニアとかオランダとか、そこは欧州

局なので分かる範囲でおっしゃいましたけれども、各国の評価は非常に高いですよ。よかったということでしたということでした。

それについては非常によかったなと思いますし、10月24日、25日の後のだんだんにぎやかになってきたときの集まりだったんですが、11月3日から7日、8日というのは。それだけたくさん人が来てどうしようという部分でもなくて、にぎわいも意外とあってという、私どもがこうなったらいいなぐらいのちょうどぐらいの人出だったのかなというふうな受け取りをしています。

ですから新しい生活様式の中でやっていけば、コロナ対策に付しながらできるんだということも確認できたと思いますので、少しにぎわいのほうにシフトしていただけたらなど、継続していただけたらなと思います。一昨日の7人発生を除いて考えますと、そういうことを思います。

それから、ふげんの燃料搬出についてですけれども、令和8年の夏頃という約束をしていただいております。これはもともとの搬出の期限を交渉し2回延ばした結果ですので、もともとは東海村のほうに出すという話からずっとずれてきて、オラノ社ということになっていますが、私どもが望んでいるのは、どこでもいいので約束の期限を守ってほしいと。ですから2回延びていますので、約束の搬出期限、また廃炉の日程は変わっておりませんがその廃炉の日程ということについては守ってほしいと。

行政レビューの中では、核燃料サイクルに対する議論とかいうのもあったんでしょうけれども、そこは私らの意見を述べる範囲ではなくて、私らとすると敷地外とにかく約束どおり出していただきたいというのが気持ちですので、そういうことをお酌み取りいただきたいなと思って、昨日もそういう発言をさせていただきました。

【記者】 隣の美浜町では、美浜原発3号機が40年を超える、事によったら国内で初めて40年を超える原発として再稼働するかもしれないという議論が生まれています。町議会とかでは、各種請願とかが出て、来月にも審議が行われて、実質的に議会が認めるという局面になるかもしれないということですが、隣接の自治体として、敦賀市は今後、美浜3号機の再稼働に向けて、どのような姿勢で臨むのかということをお教えください。

【市長】 美浜3号機、40年超えてということですが、40年超えての運転ということにつきましては、アメリカ等で前例があるということですし、また、規制委員会の中の審査基準に適合したということですので、安全性ということではしっかりと確認されていると思いますので、そこについては特に私が申し上げる必要はないかなというふうに思います。

あと、実際に運転していく段取りといいますと、いろんなハードルが県のほうでも話が出ておりますので、きちんとした信頼性の回復ということも含めながらやっていただきたいというふうに思っています。

以上です。

【記者】 新幹線のことで1点お伺いさせていただきます。

1年半遅れるということで、ある意味、残念という見方もできますが、準備期間が延びたとも言えると思います。ポジティブな意味で、何か延びた期間にこういうことに取り組みたいとか何かやりたいという前向きな思いが何かあれば、お願いします。

【市長】 先ほど申しましたように3年前倒して、私どもの日程もピッチを上げてやって

きた部分がありますので、そういう意味では新幹線は、開業したけれども駅前広場は工事中だねみたいな世界になったかもしれません。ですからそういう意味では、期間が延びたことによっていろいろ準備ができる部分は生まれてくると思いますが、今具体的にどこがと言われると、ちょっと浮かばないですね。間に合うつもりでやっていたので浮かばないです。それに合わせて、遅れたことによって、例えば今の駅前のところも、私どもの工事でも遅れてしまうかもしれませんので、今はっきり分かりませんが、プラスになるように。ですから、本町とかムゼウムとかできましたから、それはそれでしっかりと膨らませていって開業に備えられるような体制を取りたいというふうに思っています。

【記者】 原発に関連してなんですけれども、先日、第5回の定例会の議論の中で、中間貯蔵の話題を議員の方とされていたときに、市長のほうから、使用済核燃料の搬出は前提にしながらも、搬出までのより安全な保管としてサイト内での一時的な乾式貯蔵の議論はあり得るのではないかという、そういうご意見があったと思うんですけれども、ここについては改めて、どういうお考えなのでしょう。

【市長】 特にどうしようという話ではなくて、議論としてやってもいいんじゃないかということはあるかもしれませんが、実際にそういう動きがあるかということ、そうではありません。

【記者】 新幹線に関連して、工事を担う鉄道・運輸機構の拠点も敦賀にあるということで、近いところの関係の中で、いろいろ工事を進められているというところがあるかと思えます。幾つか具体例として、敦賀の工事についても遅れているというふうに大きく指摘されている部分もある状況ですけれども、そのことについて直接説明があったかないかとか、あとは、もしないとすれば、今後、市に対して直接その辺の現在の状況を詳しく説明してもらった機会をつくるかとか、その辺はどういうふうに考えておられますでしょうか。

【市長】 先ほどもちょっと申しましたけれども、全体的な工程ですので、ですから例として挙げられているのは敦賀駅ですけれども、じゃ敦賀駅の原因が敦賀市が負うのかというところとそうじゃなくて、全体の工程の中でどこがどういうふうにしたら開業できるのかという話になっていますから、ですから説明を受けるにしても全体の工程になると思うんです。ですから、わざわざ敦賀駅のことについて呼んで私が聞くということではないというふうに思いますし、トンネルのことも、そちらの市長さんがわざわざ呼ぶということはないと思いますので、全体の工程の中でそこがたまたま遅くなったというふうな理解のほうがつきりしていいんじゃないかと思っています。

【記者】 ということは、工事全体の中で、全体の遅れなり何なりを具体的に説明するしないとかとなる場合には、市長のお考えとすると、例えば県単位とか、知事に対して、県に対してそういうふうに説明あることが基本的には望ましいとか、あとは北陸全体として考えて、その代表が説明を聞くとか、そういうふうな形のほうが、個々の沿線自治体が聞くということよりも望ましいという考え方ですかね。

【市長】 そうですね。政治的に押していかなくはない部分もありますし、敦賀駅の状態を私が説明されても解決する手段がないんですよね。ですから全体工程として開業に対してどうなんだという意見の場として、県に説明されるときに私どもと一緒に沿線が立ち会うとかそういう形はあり得ると思いますが、各個撃破みたいな個々に説明していつて納得してもらおうというのはちょっと違うかなというふうに思います。

【記者】 あと、今の時点では、報告があつて、与党PTが押し返したような形で、じゃどういうふうになるのかというのは、これからまたいろいろ工法なども含めて検討がなされてということになるかと思うんですけども、結果的にどれくらい遅れるかというのがまだはっきりはしていない中ですけども、では今、敦賀市として担う新幹線工事のことであるとか新幹線開業に向けた様々な事業の動きなり、そういうところの工程なりスケジュール感というか、その辺は今の時点で変える変えないというのは別にないでしょうか。

【市長】 先ほど例に出しましたけれども、駅の東側の駅前広場は、新幹線工事が終わらないと私もなかなか工事に入れないんですよ。ですから、そこに影響は多分あるんだろうなという気持ちはしますが、それが例えば駅舎の建築が遅れていますということであれば土木工事は関係ないわけですから、その辺の現場の取り合いというのはあると思いますので、その辺の細かいことは詰めていくことになると思います。ただ、全体の開業とか、試験運転が2年から1年に減らしましたよね。ああいうことについては、私らが個々にそういうことをとがめる必要もないですし、とがめる理由もないのかなど。全体の中できちんと約束した工程で、値段でというのが、お願いしていくのは全体の力で押していかなくてはいけないというふうに思います。

【秘書広報課長補佐】 よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして12月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後2時 30分 終了